

平成19年度第3回山形県就業者確保育成協議会  
議事録概要

日時：平成20年3月11日（火）13：30～15：30

場所：庄内総合支庁水産課3階大会議室

1. 挨拶（産業経済部長）

現在、県、市町では議会中であり、来年度の予算が議会で審議をされております。県の水産関係予算につきましては、水産業の振興による県民生活の向上や地域経済の発展ということで各種の予算を計上しております。市町からも会議の中で情報を頂ければと思っております。

本会議のテーマは漁業就業者の確保育成でございますけど、そういう業界にするためにやりたいという課題に幅広く取り組みまして、目的といたします後継者、就業者の育成確保に繋げることによって、水産業に振興に期するというふうに努力をして参りたいと思っておりますので、引き続き皆様からのご尽力をよろしくお願い申し上げます。

2. 協議

1) 平成19年度就業者確保育成関連事業実施結果

- ◇ 事務局から県の平成19年度関連事業実施結果を説明した。
- ◇ 主な意見は以下のとおり。
  - この春の水産高校卒業生は、地元3名、県外に1名の4名の漁業志望がある。それから現役で県漁協に就職が決まった方が1名と組合学校に行って漁協に入る予定の方が1名がいる。
  - 研修会において、今まで流通業界の意見交換は実施されてきたが、今年度はその先のエンドユーザー（料理人等）と意見交換したいといった漁業者の要望が多かったのが特徴的だった。

2) 平成20年度就業者確保育成関連予算要求状況

- ◇ 事務局から県の平成20年度関連事業の予算要求状況を説明した。
- ◇ 今年度の長期研修をモデルケースと位置付け、水産高校卒業予定者2名の就業先における技術習得期間を長期研修適用予定であることを説明。
- ◇ 主な意見は以下のとおり。
  - 研修制度に関しては、積極的にPRしてほしい。いい制度だと思う。また、来年度の取り組みの成果が問われる。継続、拡大の意義ありというような位置付けになれば、予算要求もでき、皆さんの理解も得られる。きちんと準備して取り組むべき。

- 市では着火程度の一人乗り漁船を支援しようということで、色々相談をしている最中。県、漁協と一緒に調整してどういう仕組みだったらできるか検討したい。長期的に金融政策も含めて進める必要があると思うので、御協力よろしくお願ひしたい。
  - 将来的な仕事を目指すときには、小さいときの体験というのが大きく影響するところもあるので、小学生の体験漁業ができれば一番いいと思う。
  - 体験漁業に関する乗船定員に関しては、法的な規制があるので、やれることを体系付け、役割分担をしてやる体制をつくる必要がある。
- ◇ 結論として、平成20年度関連事業の内容に関して了承を得た。なお、底びき網体験漁業については、実施可能な方法を更に検討し、関係者と役割分担する体制作りを目指す。

### 3) テーマ「新たな販売システム」について

- ◇ 事務局から「消費者に店頭で生産者の顔の見える販売システム」の試験的実施に向けた事務局案を説明し、作業部会を立ち上げて具体的検討をする予定であることを説明した。
- ◇ 主な意見は以下のとおり。
  - 作業部会には市町も加えるべき。市町村の方がこういうテーマについては遥かにネットワークがあるということを理解して欲しい。
  - 県漁協から作業部会への参加は、販売課と鼠ヶ関、由良、酒田の販売担当者ということの方が、より効果的と考えられる。
  - 特定の店頭でするといふのは、文化伝道師を使ったモデルであるということ強調すること。要注意。「何故自分のところでやらないんだ」という話が必ず出る。
  - 新しい販売システム等を本協議会で検討しても、県漁協の理事会でこれ駄目だというふうになったら、これ全てアウトとなる。漁協内部で基本的な了解をもらってもらいたい。
- ◇ 結論として、作業部会のメンバー追加変更を行ったうえで、「生産者の顔の見える販売システム」の試験的実施が了承された。

### 4) テーマ「漁船の有効利用」について

- ◇ 事務局から県外の漁船売買情報交換の場の提供例を説明し、本県における漁船売買情報交換の場の試験的提供を「すいさん山形」誌上で行う事務局案を説明した。
- ◇ また、事務局から、これまで新規就業者及び独立希望者の相談窓口であった行政及び漁協に加え、漁業士会とも連携して対応することで、アドバイザー的役割を漁業士に担ってもらう支援体制とする事務局案を説明した。

- ◇ 主な意見は以下のとおり。
  - 紙ベースでいつでも情報が見られる方が効果的と感じる。「すいさん山形」という既存の媒体を使って情報提供するというのは、試験的に始めるには良いと感じる。
  - 「すいさん山形」だけじゃなくて、各集会所とかにポスターみたいに貼るというのも有効だと思うので、ポスターとかチラシを作ってもよいのではなか。
  - 就業相談するとき、ここに相談してもらえば各種相談内容に対応できる体制が理想的であり。現状では行政と漁協が対応していたが、今後は漁業士会からもご参画を頂きたい。
- ◇ 結論として、漁船のリサイクルコーナーを「すいさん山形」市場で試験的に実施することが了承された。また、就業相談に関して漁業士会の更なる協力を得ることも了承された。

#### 5) その他

- ◇ 事務局から本協議会の検討内容と短期研修の募集案内を県のホームページ上で公開する予定であり、公開内容の事務局案を説明した。
- ◇ 事務局から平成20年度の協議会継続と、次回協議会で来年度検討テーマを決めたい旨を説明した。
  - 鶴岡市でも担い手対策の取り組みについて、ホームページで公表・募集しているの、県のホームページと連携させて効果を高めたい。今後、担当者間で相談させて頂きたい。
  - 農業の事例のように、研修生に一年間の研修手当（生活費）が出せるように研究していくべき。一人乗りの漁船の方を何とか世代交代するようなそういうシステムを作るには必要不可欠と考える。
- ◇ 結論として、ホームページ公開内容については、鶴岡市との連携を追加することで了承された。来年度のテーマについては、次回協議会で検討することとなった。